

RHOA G17V 遺伝子変異解析の臨床検査導入に向けた後方視的検討に

関する臨床データの研究利用についてのお願い

研究の概要・背景

Ras homolog family member A(RHOA)遺伝子は、低分子量 GTPase の Rho ファミリーのメンバーであり、シグナル伝達カスケードの分子スイッチとして働き、アクチン細胞骨格の再構築を促進し、細胞の形状、接着および運動性を調整する重要な分子です。近年、節性 T 濾胞ヘルパー細胞リンパ腫・血管免疫芽球型(nTFHL-AI)を中心とした T 濾胞ヘルパー細胞リンパ腫系統の腫瘍において RHOA G17V 遺伝子変異が高頻度に認められることが報告されています。RHOAG17V 遺伝子変異は、nTFHL-AI 症例の約 70%に認められ、診断補助マーカーとして有用であり、形態学的診断が困難な症例においても腫瘍性 T 細胞の存在を示唆する重要なマーカーとなる可能性があります。

院内臨床検査として RHOA G17V 遺伝子変異解析を導入することが可能であれば、迅速かつより正確な診断に寄与できると考えられます。

本研究では、RHOA G17V 遺伝子変異解析を院内臨床検査として導入する前段階として、検査性能及び臨床的有用性について検討します。

試料・情報の利用目的・方法

病理診断の終了した残余核酸抽出液を用い、主に RHOA 遺伝子 exon2 領域を対象とした G17V 変異(c.50G>T)の検出を行います。得られたデータより、RHOA G17V 遺伝子変異検出系の技術的妥当性を検証し、検査性能を評価することを目的とします。

対象者・期間

2019年4月1日より2026年2月28日の期間に下記の病理診断を受けた方を対象とします。

- ・悪性リンパ腫と病理診断された方
- ・リンパ節生検が行われ病理診断が悪性でなかった方

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨

別紙⑤

オプトアウト（HP掲載用）書式

床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当： 山田隆志

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)